

現在の課題を明確化

— 株式会社ユーカリ光学研究所 —

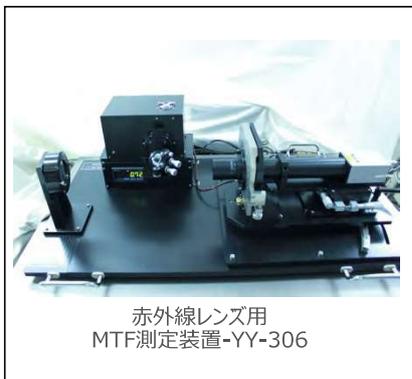
経験に裏付けられた確かな提案力（企業概要）

株式会社ユーカリ光学研究所は、1980年に油大作氏が東京光学機械（現トプコン）を退社し、光学系に特化したコンサルティング会社を設立し、創業社長として35年、業界内で確かな技術力をもとに現在の地位を確立した。当時、コンサルティングに金を払うという意識は光学業界には皆無であり、売上の上がらない日々が続いたが、試作開発に活路を見出した。光学に関することではなんでも対応でき、カメラから望遠鏡、顕微鏡まで赤外線、紫外線、可視光線と用途や大きさの大小にかかわらずすべてに対応してきた経験から、専門メーカーにはない独自のノウハウを保有している。特に赤外線分野では多くの実績を重ねており、現在では、赤外線レンズMTF測定装置分野で世界第1位のシェアを築く。



社内実験室

社訓の「想像・勇気・忍耐」は、BCPの取り組みを通じて、これまでの経験から会社にとって何が大切かを社内で話し合い改めて決めた言葉です。お客様と真剣に向き合い、価値を提供するために必要と感じてきたことを言葉にしたものです。



赤外線レンズ用
MTF測定装置-YY-306

強みは、経験に基づく提案力にあり

試作開発において最も大切なことは、多くの事例を持つことです。光学機器の試作開発会社として創業から35年間、TOP企業とともに歩んできた弊社はこれまで数えきれない試作開発にかかわってまいりました。カメラから望遠鏡、顕微鏡まで、赤外線、紫外線、可視光線と用途や大きさの大小にかかわらずすべてに対応してきた経験から、専門メーカーにはない独自のノウハウを保有しています。これらの経験をもとに提案する力こそが弊社の強みです。



雷観測衛星搭載光学系-GLIMS

お客様からもめているものはアイデアとスピード

当社に來られるお客様のほとんどは、これからの事業の種を探しておられる方です。何が作りたいか明確でない場合も多く、要求も漠然としています。そのような中でまず求められるのは、豊富なアイデアとスピードです。特にスピードは、これから事業化するにあたって、アイデアを実現するために何にいくらかかっていつまでにできるのか、最も要求される部分です。ちいさな企業の特徴を活かし、速やかに回答できる体制が多くのお客様から当社が必要とされる理由だと感じています。

BCP策定への取り組んだ理由

BCPに取り組んだきっかけは、ちょうど社内で来期以降の経営方針見直しに取り組んでいる際に、区担当者よりBCPの話をしていただいたことでした。これまでBCPは、弊社のように社員数も少なく、設計がメインで製造設備のない会社には馴染まないと感じていたのですが、お話を聞くうちに、弊社には失っては困る資産が多く存在することに気が付き、この機会に社内体制の整備と社内資産の見直しに取り組んでみようと感じました。また、経営課題として、事業承継への体制づくりが急務だと考えていたのですが、このBCPが非常にマッチしていたため、取り組みました。



株式会社ユーカリ光学研究所
代表取締役
油大作

策定にあたり特に注力した点

これまで属人的になっていた情報を社内の共有管理とし、新たに経営理念の策定や企業情報の発信体制をあらためることによって、企業の継続性と災害に強い組織体制をめざし取り組んだ。

- ・紙ベースで保管されていた設計データのデジタル化
- ・古い顧客や外注先などを見直し、連絡体制を整備、古くなっていった情報を更新しリスト化
- ・事業承継のために企業理念や社是、今後の経営計画を社内で改めて話し合い策定

今回策定したBCP文書は、年に1度更新し、定期的に経営に関してもチェック機能が働くように運用していきたい。

BCP策定の感想・効果

BCPは災害対策というイメージが強かったが、BCP文書作成でおこなう全ては事業承継につながるというのが印象です。

BCPを策定するにあたっては製造設備のない弊社では、取り組む必要がないように思われましたが、文書のチェックを受けるたび、社内に眠っていた資産が浮かびあがり驚くばかりです。

災害も含め社内の誰かに何かあれば事業が立ち行かなくなることが認識できただけでも今回取り組んだ意義は大きいと感じています。

社内環境を整備できたことで、今後は、新たな採用に取り組み、会社の発展へとつなげたいと考えています。

事業者情報	
事業者名	株式会社ユーカリ光学研究所
本社所在地	板橋区板橋2-64-10 新生ビル
設立	昭和55（1980）年 9月
資本金	1,000万円
従業員数	3名
代表者	油大作
Tel	03-3964-6065
URL	http://www.yucaly.com/